

インターネットラジオ局がつくる“読む”ラジオ

# AWAPURADIO

アワプララジオ通信

2016.06

## ポーランドと日本の養護施設 90年を経ての交流再開



本紙編集長の阿部浩一（あべこう一）がウェブサイト「JAPOLAND ポーランド情報センター」に寄稿したポーランドと日本の歴史的関係に関する記事が同サイトに掲載されました。その全文をここに紹介いたします。

●JAPOLAND ポーランド情報センター  
<http://japoland.pl/>

【写真】ポーランド大使館より日本の児童養護施設に贈られたオブジェ作品「Blooming Universe」（あらゆる命を生き育む宇宙）

第一次世界大戦後の1920年と22年、シベリアで親を亡くし孤児となっていたポーランドの子どもたち765人を受け入れたのが日本でした。その後、子どもたちは一人も欠けることなく無事に祖国へ帰還することになるのですが、第一陣375人を受け入れた施設が東京の福田会育児院、現在の社会福祉法人 福田会（ふくでんかい）。今から140年前に設立されました。

私は今年2月から福田会で仕事をするようになったのですが、最初に手がけたのがポーランドと当法人の歴史的関係を紹介するためのスライド作成。何の知識もないところから文献に当たり、役職員から話を聞くなどするうちに不思議な縁と物語に、すっかり心ひかれてしまいました。

子どもたちの帰還以来、当法人とポーランドの関係は長く途絶えていました。ところが2010年、日本文化に造詣が深いことでも知られる当時のヤドヴィガ・ロドヴィッチ

駐日ポーランド大使が休日の散策中に偶然、当法人の看板を見つけて声をかけてくださったことから、90年の時を経て交流が再開しました。前ポーランド大使は孤児の話や福田会のことをご存じで、福田会が現在もあるということに驚いておられたそうです。

2012年4月には当時のアンナ・コモロフスカ大統領夫人が当法人を訪問。「シベリア孤児救済事業完了90周年」の記念プレートを贈ってくださいました。また、2013年12月には歴史の継承と施設の子どもたちとの友好の証として彫刻家、ツィリル・ザクシェフスキさんの作品「Blooming Universe」（あらゆる命を生き育む宇宙）を、ポーランド大使館より寄贈していただきました。

また同じく大使館より、7月23日～24日にワルシャワのレギアスタジアムにて、ポーランドNPO法人Hope for Mundialの主催で開催される「児童養護施設の子どもたち

のためのサッカーワールドカップ」への招待をいただき、当法人の施設の子どもと東京都内にある他施設の子どもたちとの混成チームで出場することが決定しています。

そんな中、当法人では前述の「Blooming Universe」の修復とセレモニー開催のためのクラウドファンディングを始めました。本作品は搬送中に壊れてしまい、修復の機会

を得られないまま今日に至っていました。共感いただけましたら、ぜひご支援をお願いいたします。

2019年はポーランドと日本の国交樹立から、2020年はシベリア孤児救済からそれぞれ100年を迎えます。これからも当法人はポーランドと日本の友好に努めたいと考えています。

クラウドファンディングとはインターネット上で行う資金調達の仕組みです。インターネットを通じてたくさんの人々に少額の資金提供を呼びかけ、目標額に100%まで到達した場合のみ、そのプロジェクトの実行が決定するというものです。プロジェクトの実施には事業者のホームページを使い、クレジットカード、または銀行振り込みで事業者宛てに決済を行っていただくことになります。公開期間終了までに目標金額が集まらないと実行者には1円も入らず、それまで集まったお金はすべて事業者から支援者へ返金される仕組みになっています。

クラウドファンディングは2011年の東日本大震災をきっかけに、それまでより寄付やボランティアに注目が集まるようになった流れの中で広がったものです。現在は起業家や芸術家、著名人がかかわる活動などの資金調達手段としても知られてきています。

社会福祉法人 福田会で広報を担当している本紙編集長の阿部浩一がプロジェクトリーダーとしてかかわるこのクラウドファンディング企画をぜひご支援ください。目標金額50万円ですが、これを6月9日までに達成しなくてはなりません。5月24日現在で338,000円のご支援をいただいています。ご支援には金額に応じて、リターン（お礼）をご用意しています。インターネットが苦手な方は実行者が決済の代行を受け付けています。1000円からご支援いただけますので、ご負担のない範囲でご協力をよろしくをお願いいたします。

●お問い合わせ：03-3556-2565 [abe@sg-tokyo.jp](mailto:abe@sg-tokyo.jp)（担当：SGグループ 阿部浩一）

●養護施設の子どもたちとポーランドとの絆～オブジェを修復したい（※6月9日まで）

<https://readyfor.jp/projects/Keep-it-up>

## Awa Report 海外への一人旅で自分の知る世界が変わって見えた

毎年一人で何カ国も歩いて旅行するのが好きという藤崎太陽さんをご紹介します。



日本には見られない様式の建造物がみられるのも海外を旅する楽しみの一つ

——海外への一人旅が好きになったきっかけを教えてください。

もともと父と母が学生時代、それぞれ別の大学の旅行サークルに入っていたものの、同じ日にスペインのグラナダというところで出会って結婚したという経緯があります。海外旅行が好きで両親の影響を受けて、スペインに実際に自分も行ってみたいと思うようになりました。就職活動がうまくいかず煮詰まっていた時期に、ふと思いついて一人でスペインに旅行に行ってみたら、世界が変わって見えたんです。

就職活動では100社にエントリーして、すべて落とされてしまいました。プライベートでも、その時期にいろいろあって嫌気が差していたときで、気分転換に両親の思い出の国に行ってみたいと思いました。実際に今まで見たことがなかった景色を自分の目で見たとき、心がサーッと晴れ渡るような感覚がしたんです。これは言葉ではうまく表現できないんですが、その感覚が今でも忘れられなくて、お金を貯めては海外に行くようになりました。

——日本と海外の違いについて、また一人で行かれる理由は何でしょうか。

やっぱり景色が全然違いますね。日本にはない建造物や綺麗な景色は、見ているだけで開放感や非現実感を与えてくれます。友人といくと友人に気をとられてしまうので、思う存分その感覚を味わいたくて一人旅をしています。

今年の1月にスペインの都市、セビリア、フリヒアナ、グラナダ、コルドバを徒歩や電車で移動して周りました。カメラが趣味なので、沢山写真を撮りましたよ。

取材では旅で撮影されたという沢山の写真を見せていただきました。一人で計画を立て、実際に海外の都市を巡って歩くのが何よりも楽しいそうです。既成の概念に縛られて鬱屈とした気分が殻に閉じこもってしまう日本人も多い中、発想の転換が素晴らしいと感じます。こういった経験も行動力や視野を広げるのに役に立ち、いつか仕事に活かされる可能性もありそうですね。藤崎さん楽しいお話をありがとうございました。（青柳蓉子）

# ヨムヨム旅行記 クラシック・キューバ

かろうじて舗装された田舎道を馬が荷台を引きながらのんびり歩く。荷台に沢山の草のかたまり、時には買い物帰りの主婦を乗せて、何台もの馬車がゆっくりとすれ違った。牛が草を食む赤茶けた草原が途切れると景色はカリブ海に変化した。美しいエメラルドグリーンの入り江で遊ぶ少年たちを眺めていたら、テレビゲームがまだ一般的ではなかった子供のころを思い出した。



50～60年前の自動車もキューバではまだ現役

のんびりとした郊外とは違い、首都ハバナの旧市街では50～60年前のクラシックカーが道路を行き交っていた。スペイン統治時代の面影を残す煌びやかな教会や建物と、カラフルにカスタマイズされたクラシックカーの取り合わせは、非日常的な高揚感を与えてくれる。中国製や韓国製の車も走ってはいたが、クラシックカーは商業的にも実用的にもまだまだ必要性を感じさせた。観光客にとっては魅力的なアイテムだし、自分で長年手をかけてきた車の方が真新しい中国製よりも使い勝手がよいのだそうだ。新しいものが手に入りにくい国だからこそものを大事にする。彼らはまるで自分の家族のように車を紹介する。

利益を追求する必要がない国家システムは、ときに観光客には不便が生じる。欲しいものが、さあどうぞとあちこちに並べられているわけではないからだ。だがチェーン店やゲームセンターが増え利潤を求め始めたら、素朴だけど味わい深い今のキューバの魅力はきっと失われてしまう。

今回の旅で気が付いたことがあった。どこの国でも路上に必ずいる物乞いの姿がなかったことだ。代わりにぱりっとした制服を着た学生の姿はいつもあった。国民は配給チケットで食べ物を手に入れ、教育と医療を無料で受けられる。決して裕福ではない国だが、食べることで学ぶことに困る人たちはいない。人が生きるためには何が大切なのか。そのシンプルな回答はキューバの中にあるのではないかと。どこか懐かしさを感じるこの国を、いつかもう一度訪れてみたい。

(浅香友里)

## 投稿ひろば 「So Alive～生き生き病んで～」

「え？ 本当に？ そんなふうに見えなかった……」。私が病気をカミングアウトと言われる言葉です。

私は18歳の時に初めて「精神科」という場所に行き、以来、現在(今年32歳になります)までずっとお世話になっています。精神疾患は診断もなかなか難しい様で、診察を受けるようになって約7年になる現在の主治医による診断でも一度、病名が変更になっています。

「双極性障害」(躁うつ病)。これが私の現時点での病名です。簡単にいえば他人より少しだけ気持ちの波が激しく、その振幅も大きいという感じです。友人知人には「明るいおバカキャラ」と思われていますが、実は水面下では大騒ぎ！必死にもがいて鬱状態の自分と戦っていたりもします。最初は「息苦しさ」「眠れない」「大人数がダメ」「消えてしまいたい」などが主な症状でした。現在もそれらの症状はあり、薬物療法を行っています。

また、ストレスからの過食状態が続いていたため体重も立派な数字になってしまい、昨年夏には「糖尿病」も併発。薬物療法プラス減量の日々を送っています。今年に入り、婦人科疾患も見つかってしまい5月に手術…と、不健康な日々を送っています。とは言うものの、基本的に楽しい事が大好きなので「生き生きと病んで」います。なかなか経験できないこと(DVに遭う、借金をさせられる等)も背負って生きてきたので、需要があればいつでもそれらについて語ることができます(“生きるネタ帳”だと自認しています)。

そうそう、前置きが長くなりましたが季節柄少し疲れて「五月病」と言われる状態になっていらっしゃる方もおられるかと思ひスペースをいただきました。精神科に抵抗があるならば心療内科でもいいんです。かかりつけ内科の医師に相談するというのもいいんです。貴方の心、疲れたらこじらせる前に相談出来る場所に行ってみてください。たくさん悩んで泣いて笑って…楽しむ為に、一歩踏み出してみてくださいね。では、また会う日まで。(たかむらあやか)

※今月のAbe's VIEWは休載いたしました。

## 学び続ける理由 99の金言と考えるベンガク論



(2014年9月) 戸田智弘 著 ディスカヴァー・トゥエンティワン・1512円  
著者の作品「働く理由」を20代の頃、「ヴィレッジヴァンガード」(雑貨などを融合的に陳列販売することで知られる書店)で見つけて読んだ。それから10年弱を経て、先日ヴィレッジヴァンガードに寄った時に、働く理由のシリーズであることを思わせる表紙の本書を見つけて買った。「働く理由」は、偉人や名著等の言葉を紹介しながら、著者が仕事論を考察していくスタイルであったが、本書も同じ構成をとっている。

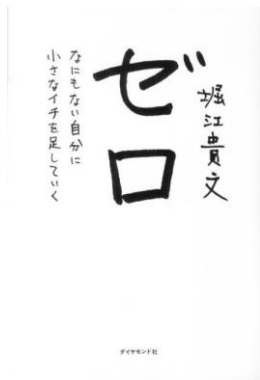
学ぶというのは、試験勉強等の学習というよりむしろ、広く生涯学習のような勉強について書いている。前半のなぜ学ぶか、時間の作り方、読書の意味などの金言とコラムをかみしめながら、勉強へのモチベーションを持ち直していく。

特に響いたのが7章「文章を書くこと」だった。書くプロセスとして、日常において「感じる」ことを出発点にし、それを引き受けて「思うこと」に高め、「考える」作業に昇華していく

と著者は書いている。

つねづね、話したいのに話すことがない、書きたいのに書くことがないという悩みともつかない悩みを持っていたのだが、この章を読んで、めざす方向性が見えたように思った。静かに大人の学ぶ意欲に火をつけてくれる本だ。(大森周子)

## ゼロ一なにもない自分に小さなイチを足していく (2013年11月)



堀江貴文 著 ダイヤモンド社・1512円

「みんな堀の中にいるわけでもないのに、どうしてそんな不自由を選ぶんだ？」

これは著者が長野刑務所に収監中も発行し続けていたメールマガジンへの読者からの返信を読んでいたときに感じた言葉だ。自由とは心の問題である。自分より優れた人を見て、嫉妬し、自分には「できっこない」と心にフタをしてしまう。

自由はどう獲得するのか？ 経済的自由であれば仕事をするにより得られる。さらに精神的自由を手に入れるためには考え続けるしかない。思考停止に陥ってはいけないのだ。これは仕事に限らず、遊びでも同じことである。例えば、あなたは毎日のランチを何処で誰と食べるか、1日の始まりに計画をしているだろうか？ 働きまくって遊びまくり、考えまくっているだろうか？ 考えることと働くことは車の両輪である。

本当の自由を手に入れ、自分の時間を生きるか、それとも他人の時間を生きるか。10年後、20年後のどうなるかわからない未来について答えのない問題に思い悩むのではなく、かけがえのない「いま」に全力を尽くすこと。自分なりの仮説を立てて、挑戦、努力、成功を積み重ねていくことが未来の自分を作っていくと信じていけば、悩むひまなどないのだ。

タイム・イズ・マネー？ そうではない、お金は増やせるが時間は増やすことができないのだ。タイム・イズ・ライフ、まさに命そのもの。できない理由を探すのではなく、できる理由を見つけよう。一恐れることはない、すべてを失っても「ゼロ」に戻るだけなのだから。(平川凌兵)

## 告知ボード

### 「次号より紙面が変わります」

7月号よりAwa Reportが休載となります。また、ラジオ番組「東京ラブレター」の終了に伴い、紹介記事も終了となったことを受けて、紙面もこれまでの4ページから2ページへ変更となります。

今後、状況の変化等により再び変更となる可能性もありますが、当面は2ページ体制で発行を続けていきたいと考えています。ページは減っても楽しさや何かしら読んでくださる方の心に引っかかる紙面作りに努めてまいります。引き続きの応援をよろしくお願いいたします。

アワラジオ通信は千代田区社会福祉協議会(東京・九段下)の中にあるちよだボランティアセンターに置かせていただいています。また、アワ

ラジオやあべこうーがかかわるイベント等でも配布しています。バックナンバーがウェブサイト上でダウンロードできます。置き場を提供して下さる方も随時募集しています。発送を希望される方もお気軽にご連絡ください。

アワラジオとは→NPO法人 OurPlanet-TV で出会った仲間、2009年に開局したミニFM、インターネットラジオ局です。名称は OurPlanet-TV の略称であるアワプラにちなんでいます(アワプラとは別々の団体です)。

編集長：阿部浩一  
発行：アワラジオクリエイティブ  
105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 浜松町ダイヤビル2F  
info@awapuradio.com  
TEL: 03-6856-0722 FAX: 03-6856-0723  
http://awapuradio.com/